

# 製品保証と注意事項

2015/07/30

## 「保証期間」

本製品の保証期間は、ご購入日より1年間とさせていただきます。

## 「保証範囲」

保証期間中に納入者側の責により故障を生じた場合は、納入者側において機器の修理または交換を行います。但し、保証期間内であっても、次に該当する場合は、保証対象から除外させていただきます。

- 需要者側の不適当な取り扱いならびに使用
- 故障の原因が納入者以外の事由による場合
- 外装部品の損傷
- 自然劣化・消耗部品
- 需要者側で改造・修理を行った場合
- 天災地変による場合

尚、ここでいう保証は納入品単体の保障を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。

## 「修理」

修理は全て「ドック方式」で行います。現地での出張修理などは一切行いません。

## 「電波障害自主規制について」

本装置は米国通信規制「FCC 第15条補足J」による計算機器制約条件に適合しております。商業環境での使用において妥当な保護措置がなされています。しかし、住宅地域でのご使用は妨害（「ゾーニング」などの受信障害）が起こることがあります。

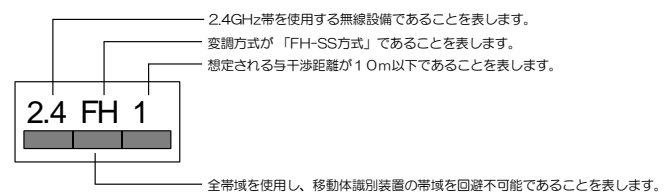
## 「その他」

- 納入品の価格には、サービス費用は一切含んでおりません。

### ■ 電波に関する注意 ■

- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
- 1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに使用場所を変更するか、電波の発射を停止してください。
- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の端末設備として、技術適合証明を受けています。本製品の分解/改造は違法となります。
- 交通機関内や医療機関内などでは、本製品のご使用はお控えください。電子機器や心臓ペースメーカーなどへの影響の可能性もあるため、ご利用に関しては各交通機関及び各医療機関の案内及び指示に従ってください。

### ■ 電波の種類と干渉距離 ■



1. 本書の内容に関しては、将来予告無しに変更することがあります。
2. 本取扱説明書の全部又は一部を無断で複製することはできません。
3. 本書内に記載されている製品名等の固有名詞は各社の商標又は登録商標です。
4. 本書内において、万一誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
5. 運用した結果の影響について、責任を一切負いかねます。

## 安全上の注意

- ◇ ご使用の前に本書をお読みになり、正しく安全にご使用ください。
- ◇ 本書は、いつでも見られる場所に大切に保管してください。



### 使用上の注意

- ✓ レーザ照射窓を覗いたり、レーザービームを直視することは絶対にしないでください。
- ✓ 分解・改造しないでください。発熱・火災・けがの原因となります。
- ✓ ガス・火薬など可燃性物質が発生する場所での使用はしないでください。破裂・発火・火災の原因となります。
- ✓ 衝撃を与えたり、落としたり、本機の上に物を置いたりしないでください。
- ✓ 小児の手の届くところに置いたり、使用させないでください。
- ✓ 雨や水などがかかる場所で使用しないでください。
- ✓ ストラップを持って振り回したりしないでください。破損やけがの原因となります。
- ✓ 炎天下の車内や冷凍庫など高温・低温になる場所には放置しないでください。
- ✓ 湿度の高い場所や誇りの多い場所には放置しないでください。
- ✓ 使用温度範囲内で使用してください。
- ✓ 静電気の起こりやすい場所やテレビなどの磁気が発生する機器のそばには置かないでください。
- ✓ 安定しない場所に放置、保管しないでください。
- ✓ 低温の場所から高温の場所へ移動すると、結露が発生する恐れがあります。結露が発生した場合は、水滴が完全に蒸発するまで、本機をしようしないでください。
- ✓ 本機のクリーニングは、柔らかい布で軽くからぶきするか、中性洗剤に浸した柔らかい布をよく絞ってから軽く拭いてください。

### 充電機および充電器・充電に関する注意（前項目に加え、下記の事項に注意ください）

- ✓ 付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。発熱・火災・けがの原因となります。
- ✓ 異物を入れないでください。ショートや発熱により、火災・感電の恐れがあります。
- ✓ ACプラグや電源コードを引っ張ったり、ねじったり、負荷をかけたり、加工したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- ✓ ACプラグや電源コードが傷んだ場合は、すぐに新しいものと交換してください。火災・感電の原因となります。
- ✓ 濡れた手で電源の抜き差しを行わないでください。感電の原因となります。
- ✓ 充電は、必ず0~40℃の温度範囲で行ってください。
- ✓ 指定以外の充電機を使用しないでください。
- ✓ 充電機は、デバイスから取り外し、金属などが無い0~40℃の温度範囲の場所に保管してください。
- ✓ 充電機を充電しても動作時間が短い場合は、充電機の寿命です。新しい充電機をお求めください。
- ✓ ご不要になった充電機を廃棄する場合は、各自治体の条例に従い、正しく処理してください。

この度は、弊社MT600ドングル(以下、ドングル)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

LED ステータス	意味
ホジング材質	PC
無線インターフェイス	Bluetooth 2.1+EDR Class2, BT-HIDプロファイル
インターフェイス	USB-HID
供給電圧	DC5V
赤色点灯	接続エラーを意味します。
動作温度	0~50℃
接続可能台数	1~7台

## 梱包内容の確認

梱包内容は、下記のようになっています。ご確認の上、万一不足、破損品がありましたら、お買い上げの販売店までご連絡ください。



ドングル本体



接続用バーコードラベル2枚



USBケーブル

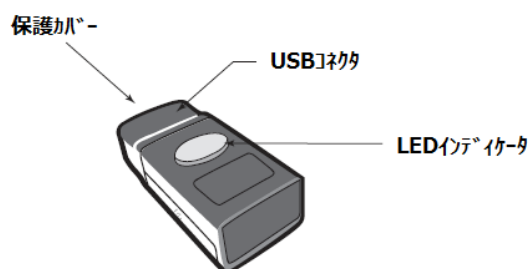


簡易説明書(本書)

g

製品の個装箱は、修理などで製品を返送する場合、輸送時の損傷を避けるために必要となります。大切に保管してください。

## 外観と名称



## LED インディケータ

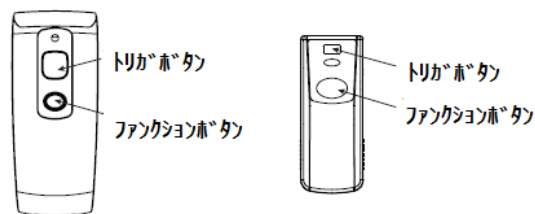
LED ステータス	意味
消灯	電源が状態であることを意味します。
青色点滅	接続待ち状態であることを意味します。
青色点灯	接続中であることを意味します。
赤色点滅	初期化中であることを意味します。
赤色点灯	接続エラーを意味します。

## モバイルコードリーダー

### 接続する

下記の手順に従って、モバイルコードリーダー（以下、リーダー）との接続を確立してください。

1. PCのUSBポートにドングルをセットします。
2. ドングルのLEDが青色点滅になれば、リーダーのトリガボタンを1秒間押して、電源をわにします。



3. 接続用バーコードラベル又はドングル本体に貼付されたバーコードラベルをスキャンし、接続を確立します。
4. ドングルのLEDが青色点灯すれば、接続完了です。

### 切断する

リーダーのファンクションボタンを5秒間押し続けるか、下記のバーコードをスキャンすることで、切断できます。この操作を行うと、ドングルに記録されたリーダーペアリング情報もクリアされます。



### 全ペアリング情報をクリアする

ドングルは、最大7台までのペアリング情報を記録可能です。先の「切断する」が行われていないリーダーのペアリング情報は、記録からクリアされないため、既に7台分の情報が存在すると、新規リーダーの接続が行えません。下記の手順に従って、全ペアリング情報をクリアします。

1. リーダーとドングルが正しく接続されていることを確認します。
2. 下記のバーコードをスキャンします。5秒ほどで、ドングル内の全ペアリング情報がクリアされます。



3. リーダーのファンクションボタンを5秒間押し続けるか、下記のバーコードをスキャンして、リーダーを切断します。ドングルのLEDが青色に点滅していれば、切断完了です。



## モバイルRFIDリーダ

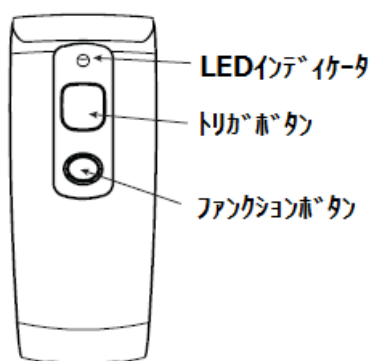
### ドライバ-とユーティリティをインストールする

弊社WEBサイトより、ダウンロードの上、ご使用のPCにインストールをしてください。

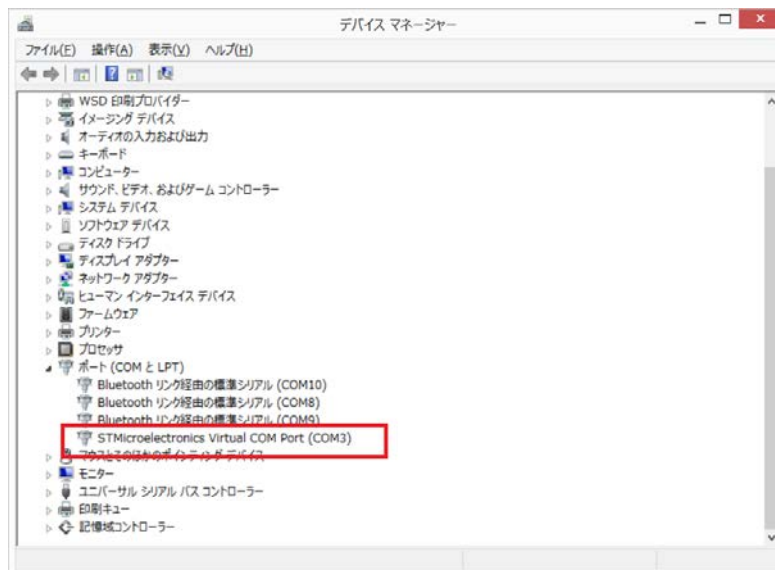
### 接続する

下記の手順に従って、モバイルRFIDリーダ（以下、リーダ）との接続を確立してください。

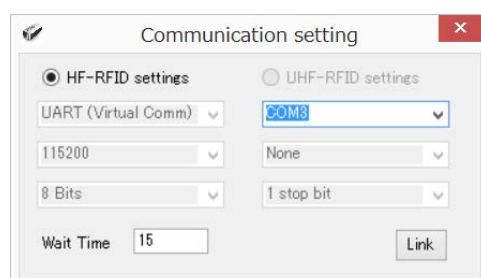
1. PCのUSBポートに dongle をセットします。
2. Dongle の LED が青色点滅になれば、リーダとPCを付属のUSBケーブルで接続します。
3. リーダのファンクションボタンを押した状態で、トリガボタンを5秒間押し続けます。ショビープ音が2回鳴り、リーダのLEDインディケータが緑色に点灯すれば、両方のボタンを離してください。リーダは、ソフトウェアモードになります。



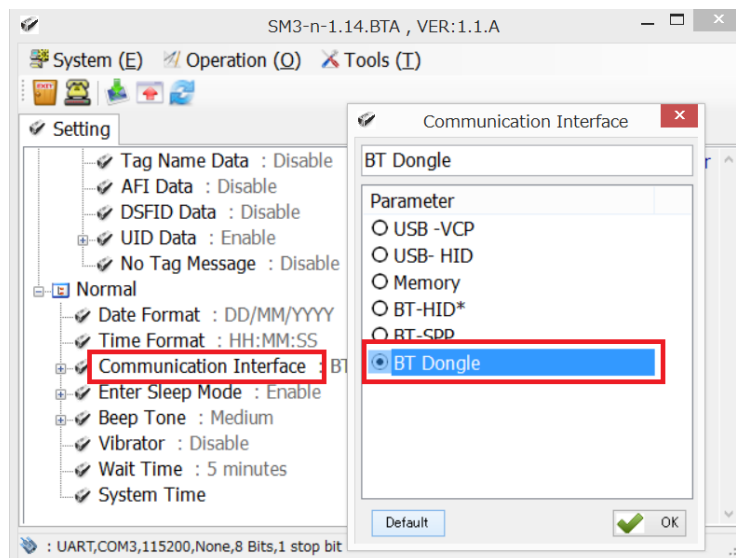
4. PCでデバイスマネージャを開き、バーチャルCOMポートが追加されていることを確認します。



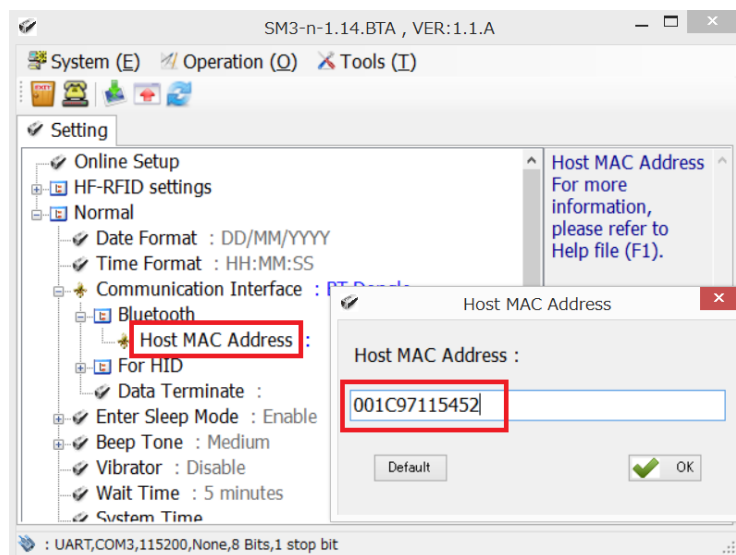
5. RFIDユーティリティを開き、確認したCOMポート番号を選択し、「Link」をクリックします。



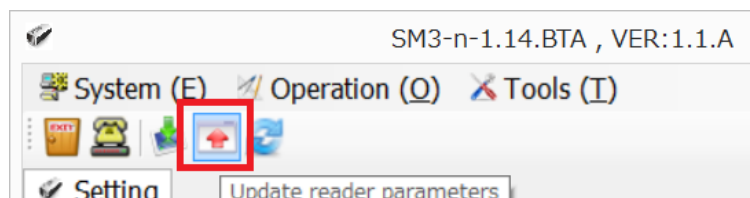
6. 「Communication Interface」をダブルクリックし、「BT Dongle」を選択し、「OK」をクリックします。



7. 「Host MAC Address」をダブルクリックし、MACアドレスを入力し、「OK」をクリックします。MACアドレスは、ドングル本体に貼付されたデータ「FIXnnnnnn」のFIXの部分をお01Cに置き換えて入力します。下記の例では、「FIX97115452」をお「001C97115452」に変換して入力しています。



8. 入力が終われば、「Update」をクリックし、設定をリーダへアップロードします。



9. アップロードが終われば、RFIDユーティリティを終了します。

10. リーダをドングルの接続が正しく行われると、リーダはビープ音を2回鳴動し、ドングルのLEDが青色常時点灯に変わります。

## 切断する

リーダのファンクションキーを5秒間押し続けます。リーダは、ビープ音を3回鳴動し、ホストからの接続待ち状態であることを知らせるため、LEDを青色点滅させます。この操作を行うと、ドングルに記録されたリーダへの接続情報もクリアされます。

